

「神の祝福の結晶、愛の結晶」(2025. 12. 14)

わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって、驚くべきものに造り上げられている。詩編 139 : 14

創世の初め、神様は人を男と女に創造し、二人を祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。」この祝福の御言葉は聞こえなくても全地に響き渡り、新しい命が次々と誕生し、現在 82 億人にまで達している。そして私たち一人ひとりも驚くべきものに造り上げられている。目があり耳があり永遠を思う心がある。まさに神の祝福の結晶であり、愛の結晶である。それゆえに神は誰をも分け隔てなく太陽を昇らせ、雨を降らせ、命を育て下さる。朝があり夜があり、春があり冬があるのだ。そしてなんと御子キリストをこの世に遣わしてくださった。ここに込められている、人知を遥かに超える神の愛を悟る時、心からの賛美と感謝を捧げざるを得ない。



ある時、スーパーで買い物をしている人たちを見ながら、あの人もこの人も神様の祝福の結晶、愛の結晶、と心で言うように心がけた。そうしたら何か温かいものが湧いてきて、彼らが愛おしい存在のように感じてきた。それ以来、スーパーだけでなく道ですれ違う人に対しても同じように、あの人は神様の祝福の結晶、愛の結晶、と見つめるようにすると、自然とそこに神の喜ぶ姿が心に浮かんでくる。そして不思議なことに、自分もまた神様の祝福の結晶、愛の結晶であり、自分を愛することも神の喜ばれることなのだ気づかされた。イエス様が「自分を愛するように隣人を愛しなさい」と言われたが、自分を愛することも隣人を愛すること同様に神様の喜ばれることなのだ。

全ての人を愛して止まない神様は御子キリストをこの世に遣わされた。それは神に背を向けて生きる私たちが、神と和解し、神との関係を回復し、小さな神の子として愛と信頼のなかを生きるためである。クリスマスはこの喜びの知らせ・福音を共に分かち合う季節である。教会では 12/21 にクリスマス礼拝、12/24 イブ礼拝を捧げる。この礼拝は全ての人に開かれ、招かれている。私たち一人ひとりが何らかの奉仕を担うと共に、一人でも多くの方が来られるよう祈りを重ねたい。